

練二通信

No. 349

平成28年2月
練馬第二小学校
校長 大槻 亨

『自分の引き出しを増やす』

校長 大槻 亨

一月は、道徳授業地区公開講座、校内書きぞめ展に多くの保護者の方々にご参観いただきました。また、練馬区立美術館で行われた連合図工展や連合書きぞめ展にも、多くのご参観をありがとうございます。

さて、野球殿堂博物館が先月、今年の野球殿堂顕彰者を発表しました。とはご存じの方も多いと思います。中でも、殿堂入りの資格取得一年目にして選出された現ソフトバンク監督の工藤公康氏は、王貞治氏や野茂英雄氏に続き、史上四人目ということが話題になっていました。その工藤監督を形容する言葉として、「努力の人」という報道がなされてきました。私は、工藤監督はとても「自分の引き出し」を多くもっている人だと感じています。それは、努力を積み重ねてきたからに他なりません。工藤監督が現役の投手だった

ときに語ったエピソードは、そのことを象徴しています。

投手にとつて、とても重要な能力に「コントロール」があります。工藤監督（当時投手）は、そのコントロールが定まらない時、コーチから肩の動きについて指導をされたそうです。しかし、工藤監督は、肩の動きだけではなく、さらに「ひじや足、腰の使い方」など、自分でいくつもの練習方法を考え、実行に移してきました。日頃からこうした「自ら考えて実行する」練習を行っていくことで、いざ、試合中にコントロールが乱れた時、自分自身の力で修正できたと述べていました。

工藤監督は、さらにこうも語っていました。「困ったときに誰かから教えてもらったことは、解決に向けてのきっかけにすぎない。『自分だったら、どうするか』を常に考えていく

中で見つけた解決方法は、自分の財産になる。」また、考えた末に得た様々な経験を工藤監督は「自分の引き出し」と述べています。この「引き出し」をたくさんもっているかどうかで、困難なことや場面に出会ったときの乗り越え方がちがうと語ったことが印象的でした。

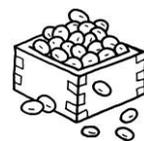
子供たちは、これまで本校で様々な経験を積み重ねてきました。学んだことをもとに、よりよい方法を粘り強く考え出し工夫することで、自分の経験をもとにした「引き出し」をたくさん作っていくことができそうです。そのことが、自分に自信をもたせ、自分を向上させることにつながるのです。

本校の教育目標の第一は「よく考え行動する子」です。その実現のために「主体的に学ぶ児童の育成」を研究主題として今まで取り組んできました。工夫と努力を積み重ね、「自分の引き出し」を増やす子供の育成に今後とも努力してまいります。



二月の行事予定

- 1 (月) 委員会活動
- 8 (月) 午前授業（一年一組のみ五時間授業）
- 10 (水) クラブ紹介集会①
- 11 (木) 建国記念の日
- 13 (土) 学校公開・火曜時間割
クラブ紹介集会②
- 15 (月) クラブ活動・クラブ見学（三年）
親子親睦会（四年生）
お話の会（一、二年）
- 16 (火) 新一年生入学説明会
一、二年生午前授業
お話の会（三、四年）
- 17 (水) 午前授業（区教育研究会）
- 18 (木) 社会科見学（三年生）
- 19 (金) 煙体験（二、三年）
- 22 (月) P T A 総会
- 25 (木) 薬物乱用防止教室（六年生）
保護者会（五、六年）五、六年生五時間授業
- 26 (木) お別れスポーツ大会（五、六年）



★今月の生活目標

・ じょうぶな体を作ろう。

★週の生活目標

- ・ 上着をぬいで遊ぶ。
- ・ 寒さに負けず元気に遊ぶ。

挨拶運動 川柳大会

藤澤 雅子

毎年、一月下旬に全校児童で「挨拶運動 川柳大会」に取り組んでいます。「きたえ国語」の時間に実施していますが、一年生は難しいので、担任の先生と一緒にしています。

挨拶は人と人の心を繋ぐ上でとても大切なことなので、日々の指導に加えて、年一回挨拶運動として取り組み、気持ちのよい挨拶をしようという意欲を喚起したり、挨拶の大切さを考えたりする機会にしています。

「川柳」は難しいところもあります。が、「五・七・五」のリズムを楽しんで、挨拶への思いを表現してくれればと考えています。「嬉しい」「楽しい」などの気持ちを直接表す言葉はなるべく使わずに、低学年はリズムよく、高学年は「言葉」にこだわり、「言葉」を考えて、作ってほしいと話しています。

一年生は特別参加で全員に賞状が渡されます。二年生以上は学年三点が優秀賞に選ばれて、昇降口に掲示され、賞状が渡されます。子供たちが一生懸命考えて取り組む「川柳」、毎年、素敵な作品がうまれています。

「マラソン月間」の取組

体育的行事部 大野 明彦

一月二十日（水）から二月十七日（水）までの中休みの時間、全校で「マラソン」に取り組んでいます。

マラソンに取り組むことで、筋持久力や心肺機能が上がり、冬の寒さに負けない健康な体を作ることができます。また、長い距離を走りぬくことで、粘り強い心を養うこともできます。

中休みの時間や体育の授業で校庭のトラックを走った回数をカードにぬっています。一人一人が、無理なく自分の目標をもって、意欲的に取り組み、走ることに楽しさや喜びを感じながら、体力をつけていって欲しいと考えています。

ご家庭でもぜひ励ましの声をかけていただきたいと思います。

二分の一人式に向けて

四年担任 新宮領 美貴

四年生は、二月十三日（土）の二、二時間目に体育館で、「二分の一人式」を行います。

「二分の一人式」は、十歳という節目である歳を迎えたことを祝い、今までのお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えるとともに、これからの夢や目標にむけての決意を表明する式です。

各クラスからの有志による「二分の一人式実行委員会」の子供たちが、休み時間や放課後の時間を利用して、プログラムの構成や案内状の作成、会場の装飾、司会原稿の準備などを行っています。当日は「二分の一人式証書授与」や「十歳の記念日」の合唱も行います。

実行委員がプログラムを構成するにあたり、各クラスで「十歳になった自分のアピールをする方法」、「お世話になった方々への感謝の気持ちを伝える方法」について話し合いました。総合的な学習の時間で学んだ「広告小学校」でのCM作りの経験を活かし、自分のもつ良さや可能性をアピールした自分CMを流したい、手紙で感謝の気持ちを伝えたい、歌で感謝の気持ちを伝えたいなど様々な意見が出ました。それらの意見を取りまとめ、「二分の一人式」に向けて、学年が一丸となっています。

共にお互いの成長を祝い、感謝の気持ちを大切にしたいと思えます。子供たち、そして保護者の皆様の思い

出に残る会になるよう取り組んでまいります。

少人数算数指導の学習

少人数算数指導 高野 絵美

今年度、算数では三、六年生の二学級を三コースに分け、習熟度別少人数授業を進めてきました。担任の先生と連携し、一人一人に応じたきめ細かい指導を行うことにより、学習内容の確実な定着や、問題解決能力や思考力の育成を図ってきました。

習熟度別の少人数授業を行うことによつて、今まで自分から進んで発表できなかった子供が手を挙げるようになったり、恥ずかしがらずに質問ができるようになったり、子供たちの様子に変化が見られるようになりました。ぐんぐん（発展）コースでは、子供たち同士で活発に議論をするなど、今まで以上に意欲的に学習できました。

今後も子供たちが「分かった。できた。算数って楽しい。」と思えるよう、分かりやすい授業づくりを心がけていきたいと思えます。